

在宅看護学実習(臨地実習3年次後期-4年次前期)

科目到達目標:疾患や障がいとともに地域・在宅で生活している人とその家族の生活を理解する。

そして、人々が地域・在宅で生活していくことを支援するための、統合的看護実践能力の基礎を習得する。

科目責任者(所属):**雑賀 倫子**(地域・精神看護学)

回数	月日	時限	講義室	授業内容	担当者	講座・分野・診療科	到達目標	授業のキーワード
1~45	別途指定		訪問看護ステーション	訪問看護ステーションのオリエンテーション	訪問看護師(実習指導者) ・雑賀 倫子 ・仁科 祐子	地域・精神看護学	<ol style="list-style-type: none"> 訪問看護実践の実際を知り、実践の根拠・理由を述べるができる。 自己のコミュニケーション能力を活かして、対象者の関心や心理状態に応じた会話が出来る。 在宅療養者と家族の健康と生活について、五感を使って観察することができる。 在宅療養者と家族の健康と生活についてアセスメント出来る。 在宅療養者と家族の健康上の問題・ニーズについて説明出来る。 ニーズに対する、その人の生活を重視した看護について説明出来る。 在宅療養者と家族の生活と、社会資源・地域社会などの環境とのつながりについて説明出来る。 家族の支援について説明出来る。 「人が生活する・生きていく」を支援することについて、自分の考えを述べるができる。 在宅療養者を主体とした個別的看護について、自分の考えを述べるができる。 在宅でのケアチームにおける多職種協働と看護師の役割について自分の考えを述べるができる。 看護の提供体制、看-看連携、継続看護について、自分の考えを述べることができる。 訪問看護ステーションや訪問する利用者宅でマナーを守り訪問看護師と協働して行動出来る。 主体的に実習に取り組み、実習を通して新たな自己の発見や課題を見つけることができる。 	マナー
				訪問看護師との同行訪問				主体性
				受け持ち利用者の同行訪問・看護過程の展開				協働性
				実習記録の作成(実習目標・日々の記録・受け持ち利用者の記録・学内演習レポート・最終レポート)				観察・アセスメント
				* 併設施設での実習、サービス担当者会議や退院前カンファレンスへの同行、訪問診療同行などが体験できる場合あり				ニーズ
								統合的看護実践
			在宅看護実習室	在宅看護学実習オリエンテーション	・仁科 祐子 ・雑賀 倫子			超個別的看護
				マナー演習				生活
				日常生活援助技術の演習				
				中間報告会・カンファレンス				
				訪問看護場面のロールプレイング演習				
				事例検討会				
				まとめの報告会・カンファレンス				

教育グランドデザインとの関連:1,4,5,6,7 学位授与の方針との関連:3

評価 実習態度・マナー・主体等:20点

日々の記録:30点

看護過程の展開:25点

学内演習・カンファレンス:25点

* 遅刻、記録提出遅れなどは大幅な減点となるので注意してください

教科書:河原加代子他著. 系統看護学講座 統合分野 在宅看護論. 医学書院

参考書:山内豊明.フィジカルアセスメントガイドブック 第2版.医学書院 角田直枝.よくわかる在宅看護.学研